

# 議員全員協議会会議録

令和8年3月18日

宮古市議会

## 令和8年3月宮古市議会 議員全員協議会会議録目次

(3月18日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
協議事項(1)	3
散 会	18

# 宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時  
場 所

令和8年3月18日(水) 午前11時19分  
議事堂 議場



事 件

〔協議事項〕

(1) 産業建設常任委員会の政策提言について

出席議員（21名）

2番	畠	山	智	章	君	3番	水	木	高	志	君
4番	山	崎	高	広	君	5番	佐	藤	和	美	君
6番	古	舘		博	君	7番	中	嶋	勝	司	君
8番	今	村		正	君	9番	白	石	雅	一	君
10番	木	村		誠	君	11番	西	村	昭	二	君
12番	小	島	直	也	君	13番	鳥	居		晋	君
14番	伊	藤		清	君	15番	高	橋	秀	正	君
16番	工	藤	小	百合	君	17番	長	門	孝	則	君
18番	落	合	久	三	君	19番	松	本	尚	美	君
20番	田	中		尚	君	21番	竹	花	邦	彦	君
22番	橋	本	久	夫	君						

欠席議員（0名）

なし

---

議会事務局出席者

事務局長 三上 巧 次 長 刈屋 巧  
主 任 川村 浩之

---

## 開 会

午前11時19分 開会

○議長（橋本久夫君）

それでは、ただいまから議員全員協議会を開会いたします。

ただいままでの出席は21名でございます。会議は成立しております。

本日の案件は、協議事項1件となります。

○

<協議事項>（1）産業建設常任委員会の政策提言について

○議長（橋本久夫君）

それでは説明事項の1、産業建設常任委員会の政策提言についてを説明を願います。

西村産業建設常任委員会委員長。

○産業建設常任委員会委員長（西村昭二君）

はい。皆さん、お疲れさまでございます。急にですね、急遽皆様にこの全協の場で我々がまとめた政策提言について、ご説明をさせていただきたいと思っております。で長くならないように原稿つくってきたので、10分程度で説明はさせていただきたいと思っておりますので、皆さんのタブレットに配信されております政策提言書を、案、水産業についてというところからおって説明させていただきたいと思っております。

水産業についての政策提言でありますけれども、はじめにと開いていただいて、1ページからなんですけれども、宮古市の水産業は、いま大変厳しい局面にあります。かつて宮古魚市場は昭和59年度に13万4,000トン、147億円の水揚げがありました。しかし、令和6年度には1万4,000トン、45億円まで落ち込んでおります。水産加工業者も倒産や廃業が出るなど、厳しい状況が続いております。しかし問題は単に魚が減ったということではありません。提言書でも少子化人口減少、温暖化による漁獲量の減少だけでは済まされない構造的な課題があると整理しております。水産業を維持し、発展させるためには魚を獲るだけでは足りません。水産物を安定的に供給し、冷凍保管、輸送、販路拡大まで含めて支える必要があるという問題意識に立った提言であります。

次に、第1章では、現状と課題について整理をしております。

○議長（橋本久夫君）

委員長座って。

○産業建設常任委員会委員長（西村昭二君）

いいですか。

○議長（橋本久夫君）

はい。

○産業建設常任委員会委員長（西村昭二君）

第1章では現状と課題について整理をしております。宮古魚市場の水揚げは大きく減少し、主要魚種であったサケ、イカ、サバ、サンマなど大きく落ち込んでおります。その一方で不漁の、不漁への対応とし、養殖事業も進められてきております。宮古トラウトサーモンは令和2年度50トンから、今年度224トンまで伸び、次年度300トン、将来的には500トンを目指している状況であります。また、現場の、現地の加工業者との意見交換の中では、地元の原料だけでは足りず、他地域、他県産、海外原料に頼らざるを得ないこと、輸送コストが重いこと、冷凍保管能力が不足していること、人材確保が厳しいことなど切実な声が出されております。加工業者は震災前の30

社から19社に減り、従業員の平均年齢も67歳という厳しい実態も示されました。つまり第1章では漁獲だけの問題ではなく、原料、加工、保管、物流、人材まで含めた構造的な問題があるということを示しております。

次に、第2章です。第2章では、行政視察での先進事例を学んだことをまとめております。視察先の一つは、宮城県石巻にあります盛信冷凍庫株式会社であります。ここは魚介類の買い付け、選別、箱詰め、冷凍保管までを一体的に行う冷凍保管加工流通の会社であります。超低温の大型冷凍庫を備え、高品質な冷凍保管を実現しております。ここから分かるのは、魚を獲ることと同じくらい鮮度を保ちながら保管をし、安定的に出荷できる仕組みが重要だということであります。二つ目の視察先はN T T グリーン&フード株式会社であります。ここはA I や I o T も活用しながら、閉鎖循環式による陸上養殖事業に取り組んでいる会社であります。視察では、高品質なエビを安定的に生産し、ブランド化や地域振興につなげている事例を学んでまいりました。一方で、初期投資、電力費、人材確保などの課題も確認されました。つまり養殖は将来性がある一方で、始めればすぐ軌道によるものではなく、相当の基盤整備が必要な分野で、すぐ軌道によるものではなく、相当の基盤整備が必要な分野であるということも学習してまいりました。三つ目は、三箇所目は、S B S フレイトサービス株式会社であります。ここは輸送、倉庫保管、通関輸出入関連などを手がける総合物流会社であります。ここで学んできたものは冷凍保管、物流、通関を一体で考える必要性であります。つまり第2章では、水産業は獲る・育てるだけでは成立せず、保管し運びうるところまでつながって、初めて産業になるということも学んできたところであります。

次に、第3章に入ります。関係事業者や関係機関との意見交換を重ねてまいりました。そこで見えてきた現実を整理しております。巻き網漁船の受入れについては、現状の冷凍処理能力では、一度に500トン規模の水揚げには対応できず、宮古市全体でも現在150トン程度にとどまるということでもあります。そういった課題が示されました。また養殖を進めるには、施設だけでなく水源、中間育成施設酸素供給設備、給餌設備、飼料供給体制まで含めた整備が必要であるということも確認されております。さらに今後の可能性として、地元企業が今年度から区画漁業権を取得し、ギンザケの海面養殖に取り組み、新年度に100トンの水揚げ、将来的には1,000トンを目指しているという動きもあります。私たちはこれは宮古の水産業にとって大きな可能性であると感じております。しかし、生産量が増えても地元市場だけに集中すれば、価格下落の懸念があります。だからこそ第3章では冷凍、養殖、原料、餌、販路は全てつながっているという現実が見えてきたということでもあります。

そして第4章、1章から3章これまでの現状分析、視察、意見交換を踏まえ、5つの提言をまとめております。

提言1は、冷凍保管機能の強化と巻き網船受入れ環境の整備についてであります。大量水揚げに対応できる冷凍保管施設の整備や立地促進を図り、港湾機能と一体となった受入れ体制を整える必要があるとしております。これは水揚げ拡大と港の機能強化の前提条件でもあります。ここは特に強く申し上げたいところです。今回の提言1については、原料の市場での巻き網船などの確保というところを強く提言に入れていきたいというところがあるということです。

そして提言2のほうに入りたいと思いますけれども、提言にもですね、重要水産養殖品目の設定というところを出ささせていただきましたけれども、これは宮古市でも農業振興、農業に関しては、重要品目というものを定め、強く支援をしてやっているという実績もありますので、今回のこの提言にはその辺も含めた形で提言の2で出ささせていただきます。今回のこの提言は、何でもかんでも支援を広げてほしい、特にその括弧を提言の中ではではなくてですね、宮古市の将来の水産業を支える可能性が高い魚種を重要水産養殖品目として、まず明確に位置づけ、その品目に対し重点的にシェアを集中するべきだという考えであります。重点品目を決めるということは、名前をつけるというところではなく、その業種を宮古の未来の産業の柱として育て切るという意思表示で

もあります。そのためには途中のどこが弱くなって、弱くて止まるようではいけないと、というところで、育成施設が、例えば足りない、給餌設備が弱いとか、飼料供給が追いつかない、そういった現状で、せっかくの養殖も地域産業として定着していません。だからこそ養殖場の設備投資への補助、単なる事業者支援ではなく、重点品目を産業として根づかせるための基盤整備として必要だというふうに感じているところであります。提言の中で最も重要だなと感じているところが今の加工業者様は地元の原料だけでは足りず、例えば北海道産であるとか、例えばヨーロッパ、アメリカのほう、海外の輸入原料を活用しながら、何とか事業を継続して維持しているというところでもあります。しかし、原料を確保するためには必要な時期にまとまった量を抑えるというところも必要になっております。大量ロットで輸入をすることによって減価率を下げる、そういった経営戦略も一つの考え方だというところでもあります。必要な時期に原料を大量に抑えるというところは大きな資金が必要であり、地元企業の加工業者様にとっては借入れの金利というものが非常に大きくなります。その結果、原料を抑えたいときに動けず、工場が止まり、仕事が切れ、雇用も守れないというようなことにつながります。したがって借入れの際の利息補助は単なる資金繰りの支援という意味合いではなく、原料を確保し、工場を止めず、雇用を守り、宮古の加工機能を維持するための支援として必要だというところで出させていただきたいと思っております。

次に提言3のほうに移りたいと思っております。冷凍・物流・販路を一体とした支援の推進についてであります。この提言の中で言いたいところはとても簡単で、魚や養殖品を増やしても保管できない、運べない、売れないのであれば、地域の収入、所得にはつながってこない。だから冷凍・物流・販路を一体で考える必要がある。これがこの提言3の核心というか、核心であります。今後、トラウトサーモンやギンザケの生産量が増えてくれば、なおさら保管・物流・販路の仕組みが必要になってまいります。これは市が運送業をやるとか、そういった話ではなく、個々の事業者では抱えきれない部分、地域全体の仕組みとして支えていこうというところでもあります。そしてまたここで大事なのが通関であります。宮古の事業者が原料や資材を外から調達する場合、また今後、販路拡大の中で輸出を、また視野に入れる場合、通関手続や書類作成、法令対応など、専門的な実務が必要になります。こういった業務を個々の事業者が単独で担うのはとても負担が大きく、中小事業者には、地元企業には難しい面がたくさんあります。だから、この提、それでこの提言では、通関や貿易実務を含めた外部専門機能の連携というところにも触れております。通関業務の対応が進めば、原料資材の受入れ、将来的な輸出入の面で宮古港利用の可能性にも広がってくると。これまで他港、他の例えば仙台港であるとか大洗であるとか、そういったところを経由して、原料を陸送していたものを宮古港で扱うことができれば、輸送距離や横持ちの負担が軽減され、輸送コストの低減につながるという可能性も出てまいります。通関機能は宮古港を利用するということではなくて、物流の拠点として活用していくための重要な条件の一つでもあります。まさに宮古の水産物を売上げに変える仕組みをつくる内容になっております。魚を増やすだけでは地域は潤わない。保管できる、運べる、売れる、この三要素、必要なときに、そして通関まで支える仕組みがあって、初めて所得につながってくるというところを理解していただきたいと思っております。

提言4に入ります。人材確保と外国人労働者の受入れ支援の強化、これはまさにそういったところに、なっております。これはもう意見交換の中で、非常に地元企業の皆様から大きな声を頂きましたのでここはそのように出させていただきました。

提言5については、ブランド化、販路拡大の推進というところでもあります。現在も、これは実はもう市で取り組んでいるわけでもありますけれども、さらに強く推進をして進めていただきたいという意味合いを込めて、改めて提言5として皆様と協議をしたいと思っております。これからの水産業を持続可能な産業としていくというところ

ではやはり欠かせない視点であると思っております。

また、今回の提言は、単に施設整備や補助制度の要望を並べたものではなく、宮古の水産業を漁獲だけに頼る、頼っていた形から養殖、加工、冷凍保管、物流、販路、人材まで含めた総合的な産業として立て直していくために必要だというような提言になっております。そして、今後はこうした取り組みを単なる獲る漁業、つくる漁業にとどめることはなく、よく言われております海業の視点で、にぎわい、交流、観光、消費へつなげていくことも大切であると考えております。宮古の海には水産資源だけではなく、港の魅力、食の魅力、浜の文化、そして人を呼び込む力があると思っております。水産業の再生を土台にしながら、宮古の海の価値をより多くの人に知ってもらい、買ってもらい、訪れてもらう、地域全体の活力につなげていく、そうした広がりがあるのがこれからの宮古にとって大きな可能性になると考えております。

議員各位におかれましては、本提言の趣旨をご理解頂き、本市水産業の振興そして海業を含めた宮古の海の新たな可能性の実現に向けて、ご理解とご協力をお願い申し上げたいというところであります。説明は以上となります。ありがとうございます。

○議長（橋本久夫君）

説明が終わりました。

この件について何か質問があれば挙手を願います。

田中議員。

○20番（田中尚君）

今、全国的な問題として言われております。魚種ではですね、クロマグロが話題になっておりますが、今回このクロマグロにつきましては、用語としても出てきません。しかし漁民の皆さん方はクロマグロを獲らせてくれという要望が非常にどこに行っても強いと言われております。今回の提言、まとめに当たってですね、そこが今度出なかったのはどういう意図というか、どういう問題認識でそうなったのかについて伺います。

○議長（橋本久夫君）

西村委員長。

○産業建設常任委員会委員長（西村昭二君）

えーとですね。クロマグロの話はよく聞かれますけれど、意見交換の中でも、地元の方からもその話は一切出なかったなど。今回の意見交換もちょっと獲る漁業というより、つくり育てる漁業のほうにちょっとシフトしたような形になっておりましたので、ちょっとそのマグロの関係はテーブルの上には乗らなかったなというところがあります。

○議長（橋本久夫君）

田中議員。

○20番（田中尚君）

今回の養殖漁業の担い手として期待されておりますのが漁協であります。主にそういう要望、漁民からもそうありますけども、主には漁協のほうからですね、定置を持つてるのは漁協ですので、ここにクロマグロが入ったときに漁獲量も超えているので放流しなきゃいけないということで、実際、現場のほうではもう網に入ったクロマグロは放流しても死んでしまうという矛盾も指摘をされておりますし、一方においては、三重県のあそこは近畿大学ですか。クロマグロの、マグロの完全養殖に成功したのにですね、どんどん天然のマグロがとれるものだから、やめちゃったという経過もあります。そんなこんな考えると非常に大きな漁業の取り巻く大きな課題はで

すね、やっぱりこの地球温暖化に伴う海水温の上昇ということがございまして、そっから養殖のほうに活路を見いだそうというのは私は流れとすれば、非常に的確だと思うんです。なぜかといいますと水温が管理できますから、養殖の場合ですと。いま宮古湾内に言わばトラウトサーモン仕切って、養殖しておりますけども、これとても水温が上がっていくとですね、いずれどうなるか分からないという仕組みを抱えております。せつかく宮古は海に恵まれているという中で、一方では海洋の変化も出ておりますね。今年も去年以上にサケが獲れるだろう、あ、サンマが獲れるだろうということが言われていますが、今の流通の課題だと思うんですけども、なぜ宮古にサンマが上がらないのかということもですね、この間、去年の水揚げ状況を見ますと、多くの皆さん方がやっぱり疑問に思っている部分であります。この問題では、産業建設さんも以前には積極な提案をした経過もございまして、大船渡の鎌田水産の一例を挙げながらですね、そういったこともありますので、いずれ大きな方向とすれば、養殖に現状ではシフトせざるを得ない。なおかつ、そういうもとでしっかりとした冷凍保存能力の向上と市場での対応に取れたら価格が暴落するないようにですね、目指してるっていう点では、大変適切な方向だなと思っておりますので、あとはちょっとこれは苦言といいますか、私の問題意識なんですけど、以前漁業が盛んな頃、海が元気があった頃は、この巻き網漁船のですね、操業規制を私たちは水産庁に要望したつたんですよ。巻き網がそれこそ魚資源の再生産を壊してる。これ二艘引の底トロールと巻き網漁、これは言わば永久戦犯に値するようですね、漁法だということを私たちは党の議員団として、水産庁に出した経過がございまして、ここは当然そういうふうな中で、今もうそういうステージじゃないというところからの提案になってるなということを受け止めておりますので、これはこれで一つやっぱり努力をして、行政もしっかり産業建設の提言を踏まえてですね、宮古の水産業が活力に向けて動き出すようにということを期待を込めてですね、意見を述べたいと思います。

○議長（橋本久夫君）

松本議員。

○19番（松本尚美君）

はい。提言ご苦労さまでした。まとめるのも大変だったかなというふうに思ってます。総体的にはいいのかなあと思うんですけど、やはり仲買人さん中心にですね、今までの、このなんていいますかね、水産関連の方々がほとんどまとまりがなかったんですね。で、この見るとですね、40年50年前にも議論されて、全て否定してきた。そういう流れにあんのかなっていうのはちょっと感じました。それで、冷凍食品、冷凍ですね、能力の問題も当然これ提言も過去にはしてるんですけど、ほとんど乗らないんですね。で、今に至ってるし、法定倉庫の提案もね、した、議論をした時期もあったというふうに記憶してんですけども、それも全然みんなばらばらで進まないというのが今の現実かなと。やはり震災後、特にも感じることはですね、処理能力といいますか、販売能力といいますか、そういったものがどんどん資金量も含めて落ちてる。そうすると当然巻き網っていう大きな船が入っていくは書いてるとおりね、とても買い付け、買い付けできない。となれば、やはり他に入っちゃうというのが現状かなとすれば、やはり課題だったのは、前浜さんでしたかね。ずっと仲買いに参入したいということで、要望したけども全部拒否してる、入れない。で、何とか前浜さんが入るっていう条件は、漁協の古い冷蔵庫を取得することが前提で認めるって1社だけだったんですね。でも震災で前浜さんは全部倉庫も駄目になって、撤退したということが現実かなと。これはやっぱり学ぶのはですね。これどういう組立てして、全体を何とかこうしたいというのと、やはり地元の方々にね、頑張っていたきたいなと。これをどうバランス取れるかというのが一つの課題かなというふうに思うんです。ただそこなかなか触れるのが難しいのかなというふうに思われるんですね。で、逆にこの魚市場のね、上屋を拡張する際にもいろいろあったのは、やっぱり大船渡が今の施設をね、

構築する、つくると。じゃ宮古はもう競争力勝てないよと、ガリバーと小人になっちゃになっちゃう。そこに、某、大きいですね、事業者が参入すると。それでもって今大船渡がね、頑張ってる。漁船もちろんですけども。だからそういったのを、避けないで、どう、こうして盛り込めるのかなというふうに思うんですが、やっぱり厳しいですかね、そこはね。

○議長（橋本久夫君）

西村委員長。

○産業建設常任委員会委員長（西村昭二君）

はい。あの、松本議員のおっしゃるとおりだと思ってます。で、総体的に言うと、今回の提言は先ほど松本議員もおっしゃいましたけれども、過去、過去、いろいろそういった提言もしてきたというところでありましたけれども、いずれ今地元企業を中心となられている複数企業の加工屋、加工する企業の皆様とあとは宮古漁協さんともいろいろ意見交換をしてきました。その中でやはり今の時代はこれからそういったものが必要であろうというところで、今回のまず提言をまとめさせていただきました。その中で、我々も宮城県石巻の盛信冷凍さんというところにお邪魔をしたところ、要は例えば巻き網船を呼ぶための、例えばああいうそういう企業を、企業誘致をしたいというところを水面下で今実は話もしてまして、その精神冷凍さんというところもすごい宮古に興味を持っていたいて、できれば第4、第5工場はなんか宮古につくりたいという宮古市の補助などもあればという具体的なところまで実は少し話が来ている部分もあります。例えば宮古の魚市場に新たに例えばまた広げるとか冷凍庫をつくるかという話ではなくできれば、民間が参入をしてそこに市が補助をするという形のほうが、何となく私たちもいいのかなというようなところで、今回このようにまとめさせていただきました。やはり行政主導でやっていくこと自体が私は私たちは決しているというようには思ってはいませんが、地元の企業であるとか、そして地元、いま地元の企業と連携をしている他の地域の企業さんとも意見交換を重ねてまいりましたので、それで今回のような提言させていただきました。で、獲る漁業というのはもちろんなんですけれどもやはり、巻き網船などで入ってきたときというのも、そういった企業さんがいらっしゃれば、必然的に船が入ってくるというお話でしたので、いずれそこを起点に、巻き網線への誘致にもなるだろうと。また、それは巻き網線というのは獲る漁業。で要は誘致をする、原料を誘致するという意味になりますけれども、この海洋環境、自然環境の変化によって、またどういった魚が入ってくるのか、果たして将来的に見て安定して魚が獲れるのかというところもあるので、要は養殖に力を入れて、要は水産業の基本給のような形で安定した生産ができるようにしていくことが、地元の加工業者さん、水産業者さんたちの求めるところだろうというところで、二本柱、そして最後、販路までちょっと三本柱のような形で出させていただきましたので、非常に大きな枠の提言になってしまいましたけれども、皆様と協力しながら進めていければいいなという思いであります。

○議長（橋本久夫君）

そのほかございませんか。

よろしいですか。はい。

それではですね、この件は、皆様のご意見を頂いたところでありますが、一応成案という形で、作成をこのままお願いするような形になると思います。特に文言修正とかそういった細かいところもあるかと思うんですが、今のご意見の中で大きく加えたり、なんか修正するところはないようでございますので、成案という形でよろしいですか。何か。

はい、西村委員長。

○産業建設常任委員会委員長（西村昭二君）

トラウトサーモンというところと宮古トラウトサーモンというところがあったので、そこはちょっとすみません、宮古と付けさせて、統一させていただきます。

○議長（橋本久夫君）

いずれそういった細かい修正は含めてお願いいたします。では、内容については完成後、私のところに提出をしていただいて、その後の市長要望という形で、これ年度内にですね、年度内にやりたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。はい。それではこの件はそのように取り扱っていきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

それでは予定していた案件を終了いたしました。

その他に移りますが、皆様から何かございますでしょうか。

では、これをもちまして議員全員協議会を閉会いたします。

大変お疲れ様でした。

午前11時49分 閉会

○

宮古市議会議長 橋本久夫